

令和8年度第1回 三朝町子ども・子育て会議 議事録

- 1 日 時 令和8年7月7日（火）午後7時～午後8時5分
- 2 場 所 三朝町役場 第2会議室
- 3 出席者 12人（委員10人、事務局2人）
- 4 欠席者 委員2人

開会：午後7時

- 1 開会（事務局）
- 2 あいさつ（町民課長）
- 3 自己紹介
- 4 議事

事務局	2年間の任期で受けていただく会長・副会長を互選しました。立候補はなかったので、事務局案を説明し、全員の委員の承認により決定しました。
資料の説明	
○資料1「根拠法令等（抜粋）」	
資料2「三朝町子ども・子育て支援事業計画の進行管理（R7実績）」	
資料3「三朝町子ども・子育て支援事業計画進捗状況の点検・評価について」	
資料4「学齢児童等推計」	
司会	そうしますと、今説明を伺ったんですけれども、質問とか意見があれば皆さんから出していただきたいと思います。 会議の事前には質問がなかったということなので、この場で説明を聞いたうえで、もうちょっと説明を聞きたいなとかでもいいのでおっしゃってください。
委員	令和7年に生まれた子が十数人なことになんてびっくりしてしまって。ちなみに令和8年の4月以降は何人ですか。
委員	母子手帳を発行している令和8年度生まれの方が、今時点で十数人です。1月の誕生日ぐらいまでの人数です。
委員	少ないは少ないですけど、それなりに保育の充実も考えてますので、何とか増えたらいいのと思うんですけど、私達はどうやって増やしていけばいいのか。三朝町にたくさん子どもが生まれたらいいですけど、町にたくさん人が来てくれるのがまず第1かなと思っております。また、広域からも、三朝町の保育は素晴らしいと思ってもらえるよう、保育の質を上げていかないといけないと思っております。
委員	今言われたことと同じなんですけども、この前、公園もできましたし、去年この場でもお話が出ていたのですが、そういう魅力ある三朝町になってどんどん子どもが増えてくれたらいいなと思います。
委員	子どもの人数が減っていくのが、大分気になります。うちは今、子どもが2人いて、もう1人子どもが本当は欲しいんですけど、経済面だったりいろいろ考えると、なかなかすぐというふうにはならないんです。けど、令和18年の予測値を見ると、本当に三朝町に子どもがほとんどいない状況になる。どうにか、そうならないようにして欲しいです。
委員	最近学童クラブでは、物価高もあって共働き世帯が増えまして、最近では、利用人数が去年よりも多く、大体多い時は45人ぐらいです。そして、土曜日の利用人数も最近は急激に増えて、10人を超える日もあります。学童クラブ的には、今は人数が増えていて、今後減っていくことはそこまで感じないんですけど、この表を見てびっくりしました。
事務局	学童クラブの実績は、月平均を取らせていただいているので、長期休暇中などは、もっ

	と多いと思います。
司会	学童クラブに関連して、東学童クラブは、夏休みとかすごく地域の支援があるって聞いています。
委員	話を聞いてると、すごくマイナスなお話になってしまうんですけど、逆転換すると、人数が少ないからこそ、今の大人の人数であれば手厚くできる。三朝町でできるものは何かと考えてほしいなと思いました。
委員	今の手厚い話に関連して、支援センターの方も常時2名の支援員さんが常駐していて、1名とか2名の利用者が、すごくゆったり過ごされています。本当にそういう面で、三朝町は支援が手厚いと思っています。でも、アピール方法の課題が支援センターの会議でも出ています。インスタに上げて頑張っておられますし、保健師さんの訪問時にも宣伝されていますが、子どもは増えないなというところです。
司会	逆の発想は、本当に大事かもしれませんよね。だからこそ手厚くできるし、他の町ではしていないことをいち早くやって欲しいという思いをずっと持っています。次に進ませてもらいます。
事務局	三朝町は子どもが少ない分、支援も手厚く、保育の充実もできるのかなということで、この後の意見交換の、複雑な家庭に対してどうやって私達は支援していくのかということに繋がっていくと思います。

5 意見交換

資料の説明	
○資料5「縦割り、横割りを超えてつなげる支援について」	
司会	こういうネットワークであらゆる部署が連携して繋がっていくというのが本当に理想だと思います。何か問題をキャッチしても、どこに言ってもいいかわからないし、その後どうなったかわからないみたいなことはよくあります。その辺を、どう次に繋げていくかということもあると思うんですけども。
事務局	実際問題、小さい町三朝町なのに、ネットワークがきちんと繋がっているのかなと、ちょっと疑問が残るところもあって、どうしてもプチプチ切れがちだということを何となく感じています。理想と現実とは若干違うかもしれませんが、こういうネットワーク構築に向かっていけたらと思います。 課題提起ということで、当日資料の資料6になります。皆さんにちょっと課題提起したいなと思ひまして、一緒に一つの事例について考えていただこうと思います。
資料の説明	
○資料6「複雑な課題を抱える家庭の支援について考えてみましょう」	
事務局	ここまで大変なケースでなくても、三朝町にも近い事例はあるのかなと思います。これについて皆さんにも感想や、今実際に困っていることがあれば、お話をしていただきたいと思います。
司会	今、課題提起がありましたけども、皆さんの周りでもそれに近いようなこととか、何か気になること、身の回りで起きていることがありますでしょうか。
委員	出生数が減ってきている一方で、色々な家庭が増えてきていまして、例えば、近くに親族がないとか、子育てをサポートしてくれる方がない家庭とか、離婚されてシングルの子家庭であるとか、お母さん自身が何か病気を背負っておられるだとか、色々な背景を持っておられる方が増えてきたと思います。
司会	それについて、役場に相談はありますか。何かに気づいて、誰かが教えてくださるみたいな感じですか。
委員	大体、保育園だったり民生委員さんだったり、色々な方から声が届きます。こちらとしても母子保健でその家庭に関わっていて、気になる家庭であったりするんです。他からの情報も得ながら、こちらでサポートを深めていくような関わりを行っています。
司会	保育園の方もありますか。何か気になるご家庭とか。 支援センターに来れる親子さんはまだ心配はないけど、実際は来れない方が心配で、抱

	えてるかもしれない。来たくても来れない人もいるんじゃないかと想像したりするんですけど、どうでしょう。
委員	支援センターに来られない方の子どもがどうなってるかということも、支援センターの会議で話に出ます。そこで情報共有をして、どこにも何にも属さない、園に入っていないし、支援センターにも時々しか来られないという方でも、きちんと保健師さんが追って見ておられ、情報共有ができていますので、所在がわからないようなお子さんは三朝町にはないって認識をしています。それくらい手厚いと思います。
司会	ご苦労も多いと思いますけど、やはり乳幼児からが大事だと思っていて、その後小学校中学校に繋がっていくのでね。教育委員会は、そういうことを把握されてるのですか。
委員	似たようなケース、もちろんこういうケースは、小・中学校どちらでもあります。いわゆる児童生徒の学校生活の様子とかを教育相談の先生、生徒指導の先生、スクールカウンセラーがカウンセリングをしながら、ケースごとのスクリーニングを学校内で行った上で、どういった関係機関に繋げていくかということをしています。いずれにしても学校は、その家庭の中まで入れないので、そこから先は福祉の方に繋いでいくとか母子保健に繋いでいくことになろうかと思います。
司会	そういうふうに、いろいろなところでそれぞれ問題が起こっていて、それをそれぞれの部署が把握してるということ。それぞれの部署が把握してることをちゃんと包括してるところが、こども家庭センターになるということですかね。
事務局	どこに相談するかという時は、やはり一つはこども家庭センターなのかなと思っています。それは小さい子から学齢期、18歳ぐらいまで。こども家庭センターが、家庭の事情を把握しにご家庭に訪問したり、園の様子を聞いたりして、こども家庭センターが中心になって、問題解決に向かっていくことになると思います。 いろんなご家庭の問題をキャッチした時に、やはりそこに繋げてほしいというふうに思っていますので、学童クラブで、保護者さんの方でも、もちろん個人情報に注意しながら伝えていただくと訪問しやすいので、ぜひ繋げてほしいと思っています。
委員	さっき話がありましたが、母親に疾患があったりする場合があると思います。でも、今の時代、男性の育児参加も進んでいる中なので、母親が動けなくても、父親が家のことや育児を代わりにできると思いますので、まずは、家族内で協力できることもあると思います。
司会	家族内で頑張れるうちはいいけど、頑張りすぎて倒れることがないように、頼ってもらえるようでありたいですね。 確かに、ママの大変さのことはよく言われるけど、パパのことはちょっとなおざりになるところもあるので、パパも苦労してることは、やはり共通認識として持たないといけないですね。それこそ昔、私達の世代は、父親は子育てを手伝ってやってるみたいな感じだったんですけど、今は、するのが当たり前だといつも息子夫婦に言われます。その感覚をやはり持てないといけないと思います。
委員	毎日学童クラブで子どもと接していると、いろいろトラブルがありますが、家庭事情まではなかなか踏み込めないですけど、子どもなので、家庭の事情を何でもしゃべってくる児童もたまにいます。特に低学年は、こちら側から聞かなくても、自分の方から話をしてくる子どもがいます。
事務局	今から、この事例に対して、例えばこういう手立てがあったという資料をお配りします。 今日の意見交換で課題提起したのは、関係する団体の皆さんと複雑な家庭に対しての支援を一緒に考えていただきたいというのが目的でした。なので、皆さんが職場に帰られ、こういう家庭に出会った時、どこに繋がれば大丈夫かということぜひ頭の片隅や意識に落としてくださるとありがたいです。そして、今日は代表のメンバーですけど、自分の部署に帰られた時に、伝えていただければと思います。 あわせてこの会のメンバーは、保育のことや学童クラブが中心になっているんですが、さっき発言の中にありました、学校ではスクールカウンセラーが相談に乗っていらっしゃるというようなことで、ぜひこの会にスクールカウンセラーの先生が入っていただけ

	ると、また学校の実態が見えてくると思います。来年以降、学校関係の方も入ってくださると色々な話ができると思います。
司会	メンバーが増やせるのであればいいですね。この会は、開催は少ないですけど、やはりそれぞれ皆さん何かしら問題はあったりして、抱えていらっしゃるかもしれないので、ぜひ持ち寄って、それを皆さんで話し合える場所にしたいなということが、せっかく集まってくださることの意義じゃないかと思いますの。次に来られる時に、こんなことがあって、こういう時、こうしたよとか、そういう話を聞かせていただいたらなと思います。 とにかく皆さんで、皆さんの子どもたちが、元気で安心して笑顔で過ごせるようにしていけたらと思います。抱え込まないようにしましょう。
司会	その他に無いようでしたら、これで終了します。

6 その他

次回会議を令和9年2～3月頃に開催します。

7 閉会 午後8時5分